



千年

台湾宜蘭

Blihun

漢本

遺跡

の至基



2025

台湾宜蘭

Blihun

漢本

遺跡

千年

の至暮



目次

ごあいさつ	宮崎県立西都原考古博物館 館長 長友由美子	4-5
序	文 宜蘭県立蘭陽博物館 館長 陳碧琳	6-7
展示解説		
	千年の至芸 台湾宜蘭 Blihun 漢本遺跡	8-17
I.	炎を操る匠たち	18-25
II.	黒潮と亜熱帯林の恵み	26-33
III.	石敷きの村落と人々の交流	34-41
IV.	祈りのかたち	42-49
出展資料一覧		
	掲載写真・画像一覧	52-53
	引用・参考文献	54
	協力機関・協力者	54

【例言】

1. 本書は、宮崎県立西都原考古博物館と中華民国宜蘭県立蘭陽博物館が共同で開催した令和7（2025）年度国際交流展『千年の至芸 台湾宜蘭 Blihun 漢本遺跡』の展示図録である。
2. 本展示会の会期は、令和7（2025）年9月20日（土）から同年11月24日（月）までである。
3. 本展示会は、中華民国文化部による博物館事業推展補助金の交付を受けて実施する。
4. 本展示会における台湾資料の国外貸与等に関する諸手続きについては、中華民国文化部文化資産局及び中華民国宜蘭県立蘭陽博物館の全面的協力を得た。
5. 掲載した写真は、各所蔵機関・個人より提供を受けたものの他は、当館副館長東憲章が撮影したものをを使用した。なお、展示品の中で図録に掲載していないものがある。
6. 本書の執筆・編集は、游貞華氏（蘭陽博物館）及び当館学芸普及担当職員・考古資料整理保存等専門員の協力を得て松本茂がおこなった。また中国語文の翻訳については王薇婷氏（淡江大學兼任助理教授）、そして全体の監修については朱正宜氏（樹谷生活科學館館長）の協力を賜った。

目錄

致詞	宮崎縣立西都原考古博物館 館長 長友由美子	4-5
序文	宜蘭縣立蘭陽博物館 館長 陳碧琳	6-7
展示解說		
	千年的至藝 臺灣宜蘭 Blihun 漢本遺址	8-17
I	火之匠人	18-25
II	黑潮與亞熱帶林區的恩惠	26-33
III	石造村落與人際交流	34-41
IV	祝禱形式	42-49
展示資料一覽表		
	刊登照片・圖像一覽表	50-51
	引用・參考文獻	52-53
	協助單位・人員	54

【例言】

1. 本書為宮崎縣立西都原考古博物館和中華民國宜蘭縣立蘭陽博物館共同主辦之令和 7(2025)年度國際交流展「千年的至藝 臺灣宜蘭 Blihun 漢本遺址」展覽圖錄。
2. 本展日期為令和 7(2025)年 9 月 20 日(六)至 11 月 24 日(一)。
3. 本展獲中華民國文化部博物館事業推展補助。
4. 本展臺灣文物海外借展相關手續獲得中華民國文化部文化資產局與中華民國宜蘭縣立蘭陽博物館全面協助。
5. 本圖錄刊登的照片，除來自各館藏機構・個人提供外，也使用了本館副館長東憲章拍攝影像。此外，展示品也包含未刊載於圖錄中之文物。
6. 本書的執筆・編輯是在游貞華女士(蘭陽博物館)及本館學藝員、考古資料整理保存等專業人員的協助下，由松本茂撰寫完成。中文翻譯由王薇婷女士(淡江大學兼任助理教授)完成，監修校正感謝朱正宜先生(樹谷生活科學館館長)協助。

ごあいさつ

昨年開館 20 周年を迎えた宮崎県立西都原考古博物館は、開館当初より台湾および韓国との学術文化交流を通じて、国際交流をテーマとした展示会を開催してきた歴史を持っています。本年は 2019 年以来二度目の交流となる台湾宜蘭県立蘭陽博物館と手を携えて『千年の至芸 台湾宜蘭 Blihun 漢本遺跡』を共同開催するはこびとなりました。

世界的に猛威を振るったコロナ禍以降、久方ぶりの本格的な国際交流展となる本展示会では、中華民国の国定考古遺跡である「Blihun 漢本遺跡」の出土品 160 点あまりを紹介いたします。煌びやかに輝く金製の装飾品、台湾固有の動物を含む自然遺物、金属や鹿の角を用いて表現された印象深い人物像、石敷きの村落や製鉄炉など、台湾鉄器時代の千年を物語る多様な遺物と遺構は、今回が本邦初公開となるものです。

「考古学を通じ、過去を知り、今を認識し、未来を創造する活力を築く」が、私たち宮崎県立西都原考古博物館の基本理念です。このことは、国際交流の場面でも大切な真理であると思います。「過去を見つめて、はじめて今日を知り、未来を見通すことができる」ように、真の相互理解には歴史や文化を知ることが重要であるのです。

この展示会が、黒潮を通じて繋がる宜蘭県と宮崎県、台湾と日本との交流の結び目となり、学術文化にとどまらない両地域の相互理解が一層深まるきっかけとなれば、これに勝るよろこびはありません。

最後になりましたが、本展示会の開催にあたり、貴重な文化財の出展をご承諾いただきました中華民国文化部文化資産局及び蘭陽博物館をはじめ、多大なるご協力をいただきました関係者の皆様に対し、深く御礼を申し上げ、ごあいさついたします。

2025 年 9 月 20 日

宮崎県立西都原考古博物館

館長 長友由美子

致 詞

去年歡慶開館 20 週年的宮崎縣立西都原考古博物館，擁有多年透過台韓間的學術文化交流，舉辦國際交流展的歷史。今年與臺灣宜蘭縣立蘭陽博物館攜手共同舉辦『千年的至藝 臺灣宜蘭 Blihun 漢本遺址』展。

這場在歷經 Covid-19 疫情肆虐全球，睽違多時舉辦的國際交流展，共展出 160 餘件中華民國國定 Blihun 漢本考古遺址出土的遺物。包含璀璨輝煌的黃金飾品、臺灣特有獸類骨骸、以金屬、鹿角打造讓人印象深刻的人物像、石造村落、鍛鐵爐等，眾多闡述臺灣鐵器時代千年歷史的遺物與遺構，都是首次在日本亮相。

「透過考古學，了解過去、認識現在、孕育創造未來的活力」是宮崎縣立西都原考古博物館的基本理念。我更認為此一理念更是進行國際交流時的重要真理。就如同「凝視過去才得以了解現在，進而看見未來」這句話所要表達的，若想達到真正的相互理解，關鍵還是在於了解歷史。

期待本展覽能建立以黑潮聯繫彼此的宜蘭縣與宮崎縣、臺灣與日本之間的交流橋梁，也盼能打破學術文化的專業範疇，成為促進兩地相互理解的契機。

最後，更要由衷感謝包含允諾出借重要文化遺物的中華民國文化部文化資產局與蘭陽博物館等，為本次展覽盡心盡力提供寶貴協助的所有工作人員。

2025 年 9 月 20 日

宮崎縣立西都原考古博物館

館長 長友由美子

序 文

面對太平洋、背靠臺灣群山，位於蘇花交界處的「漢本遺址」靜靜沉睡了千年，直到一場現代交通工程的開鑿，才讓這段遠古歲月重見天日。

從搶救發掘到系統性調查，遺址中發現的玻璃、瑪瑙等外來物質，取代原產玉器，成為當時重要的裝飾與儀式用品。豐富的文化堆積層證明，漢本人不僅掌握高溫工藝技術，也擁有完整而特殊的聚落型態與埋葬形式，逐步為我們揭開史前人群出海遠行、冶煉金鐵、裝飾身體、安葬族人的生活景貌。寫在地底的歷史，不再只是教科書上的符號，而是可親觸、可對話的遺物與遺跡，正如本次展覽所呈現。

「千年的至藝 臺灣宜蘭 Blihun 漢本遺址展」，以國定考古遺址出土文物為核心，是臺灣少數於海外舉辦的國定遺址國際交流展。展覽以「交流」為主軸，既彰顯史前海洋人群的流動性，也回應當代博物館於全球化浪潮中所承擔的對話與共學責任。睽違六年，再度與日本宮崎縣立西都原考古博物館攜手合作，透過策展、翻譯、展示、教育與研究的實質互動，策畫出一場跨越時空與國界的文化交流。

感謝日本友館、文化部、文化資產局、宜蘭縣政府文化局等單位的鼎力支持，也感謝一路參與本次國際交流展覽計畫的所有夥伴。千年前，漢本人留下的不僅是珍貴的器物，更是環太平洋文化交流的歷史證據。今日，我們將這份文化記憶帶到西都原考古博物館，盼與日本朋友一同共享臺灣考古的多元成果，在此也向豐富的史前文明漢本人表達最深的敬意，帶領我們連結千年前的過去，並啟發對未來的想像。

2025年9月20日

宜蘭縣立蘭陽博物館

館長 陳碧琳

序文

太平洋に面し、背後を台湾山脈に囲まれた「漢本遺跡」は、現在の宜蘭県と花蓮県の境界で、千年の眠りについていました。ところが、現代の道路建設工事によって、遠い過去の時代が再び日の目を見ることになったのです。

緊急発掘とその後の学術的発掘調査において発見されたガラスや瑪瑙などの交易品は、地元産の玉器に代わり、重要な装飾品や儀式用品として使われていたことが明らかになりました。豊かな文化を包み込んだ地層の堆積は、漢本遺跡に暮らした人びとが高温による工芸技術を習得していたこと、そしてこの地域独特の集落をかたちづくり、彼ら独自の埋葬習俗を持っていたことを証明しています。彼らが大海に漕ぎ出で、金や鉄などの金属の精錬に長け、その身体を煌びやかに着飾り、亡くなった同胞を弔っていた、具体的な暮らしの光景が次第に明らかになってきたのです。大地に刻まれた歴史は、教科書のページに印刷された単なる記号ではありません。今回の展覧会がまさにそうであるように、触れることができ、対話することができる遺物として、遺跡として歴史が存在しているのです。

「千年の至芸 台湾宜蘭 Blihun 漢本遺跡」は、国定考古遺跡の出土品を中核に据えた、台湾では数少ない海外での国際交流展です。展覧会は「交流」を軸に、先史時代の海洋民族の流動的性格を浮き彫りにするとともに、グローバル化の潮流において現代の博物館が担うべき対話と協働の責任に応えるものです。日本の宮崎県立西都原考古博物館と6年ぶりに手を携え、企画・翻訳・展示・教育普及・調査研究における実際的な交流を通じて、時空と国境を越えた文化交流を企画しました。

日本側の友好博物館、台湾の文化部、文化資産局、宜蘭县政府文化局など関係機関の多大な支援に感謝申し上げます。また、今回の国際交流展の計画に参画いただいたすべての支援者の皆様にも感謝申し上げます。およそ一千年前に漢本の人びとが残してくれたものは、貴重な物質文化といふにとどまらず、環太平洋を舞台とした文化交流の歴史的証拠にほかなりません。こんにち、私たちはこの文化の記憶を西都原考古博物館に持ち込むことで、台湾考古学の多様な成果を日本の友人たちと共有することを願っています。また、豊かな古代文明を育んだ漢本遺跡の人びとに最も深い敬意を表し、千年前からの過去とつながり、未来への想像を刺激するきっかけとなることを願っています。

2025年9月20日

宜蘭県立蘭陽博物館

館長 陳碧琳

〈展示解説〉

千年の至芸 台湾宜蘭 Blihun 漢本遺跡

台湾北東部に位置する宜蘭県の蘇花海岸。県域の北部に広がる蘭陽平原とは対照的に、花蓮県に隣接する県域南部では、黒潮洗う太平洋のすぐそばまで山塊が迫っている。Blihun 漢本遺跡が発見されたのは、険しい地勢に交通路を確保するための道路建設工事中のことだった。2012年3月、工事の状況を確認しに現地を訪れた考古学関係者が昼食の麺を食べながら、ふと目をやった先に大量の土器片を見つけたのだ。発掘調査の結果、台湾新石器時代晩期から台湾鉄器時代（十三行文化）(01)にわたる、少なくとも2枚の文化層が確認され、1,000年余りに及ぶ歴史を秘めた遺跡であることが明らかとなった。発掘調査にあたった劉益昌氏の言葉を借りれば、それまで明らかでなかった台湾北東部の鉄器時代における空白を埋めるパズルのピースが見つかったのだ。2016年には、「Blihun 漢本遺跡」の名称で、台湾における8番目の国定考古遺跡に定められた。

遺跡は花蓮との県境、和平川の河口近くに立地する。遺跡の名を構成する「漢本」という表記は、日本統治時代の地図に記された「ベレフン」または「ペンフン」を漢字にしたものだが、「Blihun」の発音は台湾原住民のグループの一つであるタイヤル族の言葉で「扉」を意味する。

Blihun 漢本遺跡の特質と重要性は多岐にわたる。石敷きの村落とそれを構成する家屋、製鉄関連の施設、埋葬施設などの遺構、彼らが口にしたであろう山海の幸など、この場所での具体的な生活の様子が垣間見えるだけでなく、金製品や瑪瑙（紅玉）製品、ガラス製品、銅銭、大陸産陶磁器などの舶載品から、この遺跡を残した人びとが交易に従事した航海民だったことも窺い知ることができる。Blihun= 門戸の名が示すとおり、この遺跡は、山と海の交流、台湾島内・島外にわたる交流の窓口であり結節点であった (02)。

時代	史 前 時 代						歴史時代
	舊石器時代	新石器時代			鐵器時代		
代表的遺物	礫石砍器	早期粗繩文土器	中期赤色細繩文土器	晚期黑陶/彩陶/素面土器	幾何學印紋/素面土器		原住民時代
考古學的的文化 北部・中部・南部・東部	長濱文化	大空坑文化	訊塘埔文化	芝山岩文化 圓山文化 植物園文化	十三行文化		原住民各民族文化
			牛罵頭文化	營埔文化	番仔園文化		
			牛稠仔文化	大湖文化	蔦松文化		
			富山文化	卑南文化 巨石文化	阿美文化 三和文化		
	30,000 BP	6,000 BP	4,500 BP	3,500 BP	2,100 BP	400 BP	

01 台湾考古学の時代・文化区分／臺灣考古學的時代・文化區分

〈展示解說〉

千年的至藝 臺灣宜蘭 Blihun 漢本遺址

位於臺灣東北部的宜蘭縣蘇花海岸，有別於北邊遼闊的蘭陽平原，緊鄰花蓮縣，面對黑潮流經的太平洋沿岸群山環繞。Blihun 漢本遺址就是在險峻地勢中開拓交通要道的公路建設工程時所發現的。2012 年 3 月，為確認施工情況前往當地的考古監看人士中午吃麵時，無意間看見眼前大量的陶器碎片。調查發現這裡是從臺灣新石器時代晚期自臺灣鐵器時代（十三行文化）(01)，蘊含至少二個文化層，橫跨一千多年的遺址。若借用負責挖掘勘察的劉益昌老師的話，就好比找到了釐清臺灣東北部鐵器時代真相的最後一片拼圖。2016 年，以「Blihun 漢本遺址」的名義，將其登錄為臺灣第 8 處國定遺址。

遺址位於與花蓮縣相鄰的和平溪河口附近。雖然「漢本」這一地名可能來自於日文謄寫時造成的誤植，但「Blihun」的發音在臺灣原住民族之一的泰雅族中，則是「大門」的意思。

Blihun 漢本遺址的特質與重要性豐富多元。不僅能一探石造村落及家屋、相關製鐵設施、墓地等遺構，以及住民口中的山珍海味等實際生活樣貌。還能透過黃金製品、瑪瑙（紅玉髓）製品、玻璃製品、銅錢、大陸產陶瓷器等舶來品，得知生活在此一遺址的人們是從事海上交易的航海一族。就如同 Blihun = 大門，漢本遺址是山與海的交流、橫跨臺灣島內外的交流窗口與橋梁(02)。



02 Blihun 漢本遺跡の立地
／ Blihun 漢本遺址地理位置

太平洋

I. 炎を操る匠たち

Blihun 漢本遺跡の出土品で目をひくのは、いまなお輝きを失わない黄金製の装飾品や、精緻な意匠を凝らした青銅製品である（13・46）。実用品としての鉄製品もある（12）。

これらの金属製品には、交流によって運びこまれたものもあるが、この場所で生産・製作されたものも含まれる。何よりの証拠となるのは、石を積み重ねて作られた特殊な構造の遺構である（03・11）。鉄の精錬に用いた炉の跡だと考えられ、同じ構造の石組炉は新北市の十三行遺跡からも発見されている（19）。西都原考古博物館と新北市立十三行博物館、愛媛大学などが共同で実施した実験によって、この遺構が製鉄を目的として構築されたものであることが証明された（20）。伴って出土した鉄滓や（12）、石を利用した青銅製品の鋳型も、炎を操る冶金・鍛冶集団がこの地にいたことを物語っている（15）。

ところで、これらの金属製品の原料はどこで手に入れられたのだろうか？

台湾の金鉱床として、新北市の金瓜石鉱山がよく知られるが、Blihun 漢本遺跡から和平川を遡った中央山脈にも大濁水北溪の金鉱床がある。台湾でも銅鉱石が産出するが、合金製造に必要な錫などの鉱物資源は存在しない（17）。交易で入手した銅銭を溶かして原料とし、青銅器を鋳造した可能性がある。鉄製品の原料は主に砂鉄と考えられ、漢本遺跡近辺の河口や海浜でも採取可能だったのだろう（04）。

豊かな色彩で眼を楽しませてくれるガラスもまた、強い火力を駆使して得られるものだ（18）。だが、溶かし直された痕跡を持つガラスの破片から Blihun 漢本遺跡の人々がガラスを溶かすに十分な火力を得る技術を持っていたことは確かとはいえ、ガラス製品を一から作るまでできたかどうかはよく分かっていない。いまのところ、遺跡から出土した環状ガラス製品やガラス製ビーズは、台湾島外から持ち込まれたものと推定されている。



03 Blihun 漢本遺跡
の製鉄遺構
／ Blihun 漢本遺址
鍛鐵遺構

I 火之匠人

Blihun 漢本遺址出土物中最引人矚目的，包括至今仍璀璨耀眼的黃金飾品、巧奪天工的青銅製品（13・46），以及做為生活用品的鐵製品（12）。

這些金屬製品有些是透過交易而來，有些則是當地生產製造的。最有力的證據便是以石塊疊砌而成的遺構（03・11）。被認為作為製鐵之用的疊石鍛爐，也曾出現在新北市的十三行遺址（19）。西都原考古博物館與十三行博物館、愛媛大學的共同實驗也證明此一遺址是以製鐵為目的所搭建的（20）。伴隨出土的鐵渣（12）、用來製作青銅製品的石範，都再再證明擅於與火共舞的冶煉、鍛鑄集團曾居於此地（15）。

問題是這些金屬製品的原料到底來自何方？

臺灣最有名的金礦礦床是新北市的金瓜石礦山，不過流經漢本遺址的和平溪上游大濁水北溪所流經的中央山脈也存在金礦礦床。臺灣雖然也出土銅礦，但並沒有製作合金所需要的錫等礦藏（17），銅器的原料比較可能是直接將交換所得的青銅錢重新熔融澆鑄而成。鐵砂則有可能是採集自 Blihun 漢本遺址附近的河口或海濱（04）。

色彩斑斕賞心悅目的玻璃製品則是以高溫火力鑄造而成（18）。一些再熔融的玻璃殘件雖可證實 Blihun 漢本遺址住民具備足以熔解玻璃的火力技術，但目前尚無法釐清其是否具備從零開始打造的能力，因此推測遺址出土的玻璃環、玻璃珠皆來自臺灣島外。



04 砂鉄を採取する Blihun 漢本遺跡の人々 （想像復元画）

／採集鐵砂的 Blihun
漢本遺址眾人（想像復
原圖）

II. 黒潮と亜熱帯林の恵み

海岸に営まれた Blihun 漢本遺跡からは、魚介類や海生哺乳類・爬虫類の骨などが、食糧残滓や加工された道具として多く出土した。また、シカとイノシシに加え、台湾ウンピョウや台湾カモシカなど台湾特有の陸上動物に関連した遺物も豊富である。

貝類は食料となっただけでなく、貝殻が貝輪やビーズなどの装飾品の材料としても利用された (21-23)。海産の魚類としてはカジキやサメの仲間、シイラなど大型魚類が目立つ (24)。

他の海生動物ではウミガメやイルカの骨などに加えてザトウクジラの耳骨が特筆される (25)。漢本遺跡の人びとが大海に漕ぎ出し、果敢に巨大なクジラに立ち向かったのか、それとも漂着したクジラの巨体を資源として利用したのか、は考古資料から直接読み取ることはできない。ただ、遺跡から出土した石器や骨角器、鉄器の一部は、海生の大型生物を対象としたものと考えられ、クジラやイルカ、カジキ、サメなどを仕留めた漁具を含む蓋然性は高いだろう。関連して鉄製の魚鉤 (ギャフ) も注目される。こうした海の幸を得るために、山の幸であるシカの骨や角が不可欠だったことも興味深い。これらは逆 T 字形釣針や組み合わせ式釣針の素材としても利用される (05・26)。

シカの角や骨、イノシシの牙などは他にも多くの道具の素材として利用されたと考えられるが、この遺跡で特徴的なのは、食肉目の哺乳類やキョンの牙などに複数の孔を穿った装飾品の存在である (28)。なかでも、絶滅亜種である台湾ウンピョウの牙や骨を利用した製品は注目に値する (29)。多くの台湾原住民族はかつて、台湾ウンピョウを聖獣・靈獣と位置づけ、その毛皮や牙を特別な装飾品として珍重していた (32)。漢本遺跡の人びともまた類似した習俗を持っていた可能性があるだろう。

Blihun 漢本遺跡は山海の恵みが交差する拠点であり、眼前の海に横たわる黒潮の流れは文化や資源を受け入れ、かつ運び出す流通ルートの役割を果たしたのである。

05 魚鉤 (ギャフ)

／鐵鈎

※非展示品／非展示品



II 黑潮與亞熱帶林區的恩惠

從傍海而居的 Blihun 漢本遺址裡挖掘出的各種魚貝類、海洋哺乳類、爬蟲類的骨骸等，大多都是食物殘渣或加工工具。另外，除了鹿、山豬外，與臺灣雲豹、長鬃山羊等臺灣特有陸地動物相關的遺物種類也相當豐富。

貝類除了做為食材，貝殼更是手環、墜飾等飾品的材料（21-23）。海水魚類則以旗魚、灰鯖鯊、鬼頭刀等大型魚類最具代表性（24）。

其他海洋生物中最值得一提的則是海龜的骨頭、海豚以及大翅鯨的耳骨（25）。至於這些遺物是由於漢本遺址的住民是果敢出海與大鯨魚一較高下，還是從在此擱淺的巨大鯨魚身軀取得的呢？根據目前的考古資料，尚無法提供明確的答案。不過，若就此次展出的石製、骨製以及鐵質尖器來看，應該是用來處理鯨魚、海豚、旗魚、鯊魚等大型海洋獵物的漁具。與其相關的大型鐵鈎也同樣受到矚目。有趣的是若想捕獲這些珍貴海味，被視為山珍的山豬、鹿的骨頭、角更是不可或缺，當時便以這些材料製成了雙尖狀魚卡子、組合式釣鈎等（05・26）。

山豬獠牙、鹿角更是諸多飾品的素材，但漢本遺址最富特色則是在肉食哺乳類、山羌的牙齒等鑿出許多孔洞的飾品（28）。其中最吸引眾人目光的則是已滅絕臺灣雲豹的牙齒製成的飾品（29）。臺灣原住民過去都曾將臺灣雲豹視為聖獸、靈獸般的存在，將其毛皮、牙打造成特殊飾品加以珍藏（32）。因此，可研判出漢本遺址的住民也擁有類似的習俗。

Blihun 漢本遺址位於擁有富饒山海資源的交會處，流經眼前大海的黑潮不僅帶來了文化、資源，也扮演了貨物流通通路的角色。



06 Blihun 漢本遺跡の村落
と自然(想像復元画)

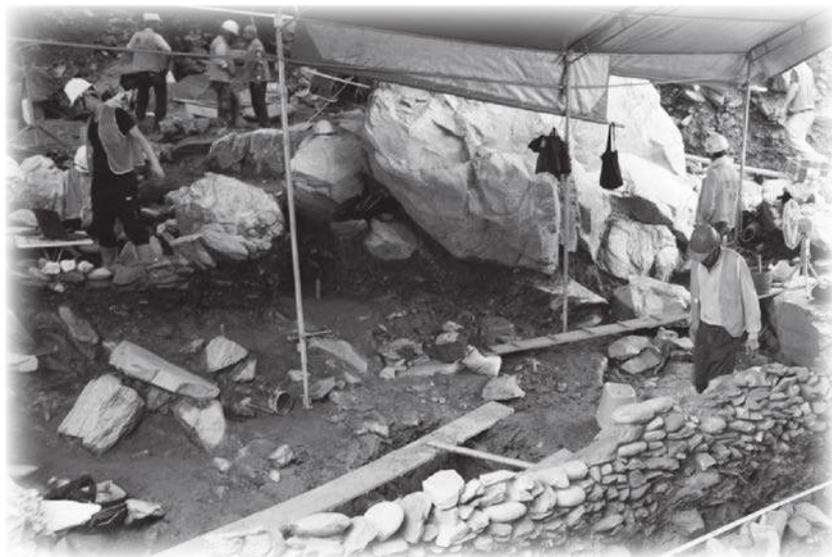
／Blihun 漢本遺址の村落
與自然(想像復原圖)

Ⅲ. 石敷きの村落と人々の交流

Blihun 漢本遺跡の村落・住居はその構築部材として石を多く利用した。海浜で採集できる様々な石材は、家屋の周囲の石畳を築き、集落の道を舗装する材料としてうってつけだった (07・08・33)。これらの石は製鉄関連の施設や墓を造るのにも利用された。石を多用する伝統は、一部の台湾原住民にも受け継がれている(34)。

特徴的な器面調整を施す印紋土器の様相から、この村の人々が台湾の北西部・南東部の集団と盛んに交流した様子が窺える。特に脚付有肩壺は、同じ宜蘭県内にある淇武蘭遺跡にも類例が求められ、十三行遺跡の著名な人面付壺と同様に、十三行文化に属する土器文化の伝統と評価できる (35)。十三行遺跡が立地するのは淡水川の河口であり、八里坌 (Parihoo) という地名だが、地形と地名の発音が Blihun 漢本遺跡と共通することから、両地域に直接的な繋がりがあった可能性を指摘する考えもある。宜蘭県南部から西側の中央山脈一帯を生活域とするタイヤル族が、移住した先の土地に移住元と同じ地名を付ける慣習を持っていたこともこの説の根拠となっているが、真相は謎のままである。

これまで見てきたように Blihun 漢本遺跡には、定住的要素が認められるいっぽうで、海域を主軸とした移動生活の要素も色濃く存在する。それを如実に示すものとして瑪瑙 (紅玉) 製玉類がある (39)。そのデザインは東南アジアに源流を持つ可能性も指摘されている。劉益昌氏はこの遺跡の住人が台湾でも最初期の交易集団だった可能性を指摘している。



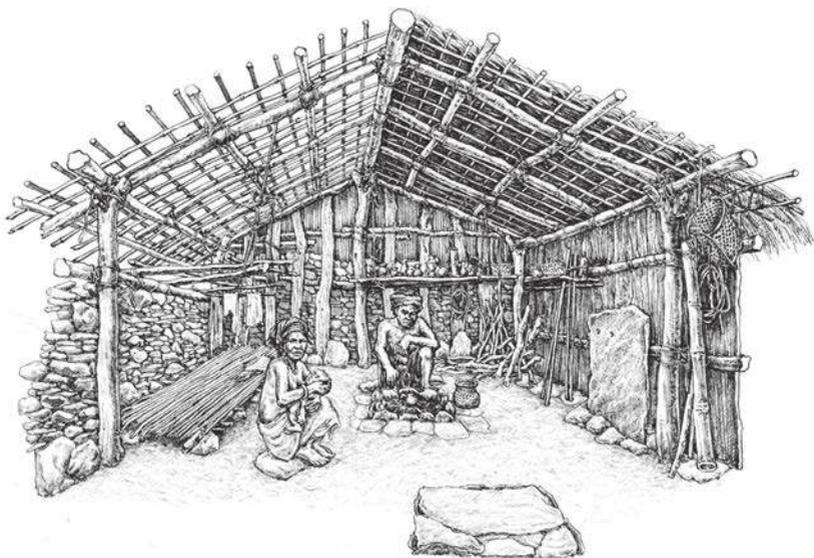
07 Blihun 漢本遺跡の発掘調査 / Blihun 漢本遺址発掘調査

III 石造村落與人際交流

Blihun 漢本遺址的村落、住居建材大多使用石材。自海濱採集而來的各類石材，可做為房屋外牆、村落鋪路的建材（07・08・33）。好用石材的傳統也被部分臺灣原住民傳承至今（34）。

從陶器的特徵，可窺見漢本住民與臺灣西北、東南部族群頻繁交流的樣貌。特別是在同樣位於宜蘭縣的洪武蘭遺址找到類似文物的「腳肩壺」，也被認為與新北市十三行遺址著名的人面陶罐相同，皆為隸屬十三行文化的土器文化傳統（35）。十三行遺址所在的淡水河河口，舊名八里坌（Parihoon），其地形及地名發音也都與 Blihun 漢本遺址類似，因此有學者認為兩處或許有直接的關聯性。而此一推論也來自臺灣原住民會以移居前的土地作為移居後的土地命名的習慣。不過，目前真相仍是未解之謎。

目前所知的 Blihun 漢本遺址除了具備定居的相關要件外，也可見以海為主軸的移動生活要件。這些要件則具體呈現在瑪瑙珠（紅玉髓）上（39）。有一說認為這些設計來自東南亞。劉益昌老師則提出了漢本遺址的住民是「臺灣最初始的交易集團」這個可能性。



08 家屋内部の構造（想像復元画）／家屋内部想像復原圖

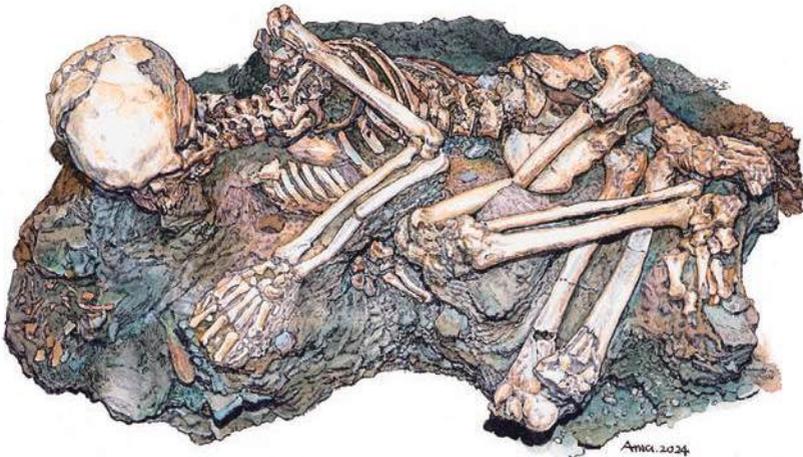
IV. 祈りのかたち

遺跡からは多くの墓も見つかった。良好に保存された人骨の埋葬姿勢や副葬品からは、彼らの宗教観や他界観も垣間見ることが出来る(09・42-46)。また、様々な道具のそこかしこに集団のアイデンティティや馴染み深い生き物の意匠が凝らされている(47-51)。

精神文化を表す出土品の中で、Blihun 漢本遺跡のシンボルともいえるのが鹿角製人形刀柄ひとがたである(10)。共通する意匠は、青銅製人形刀柄にも見て取れる。大きく誇張された頭部とは対照的に小柄な、蹲踞そんきょの姿勢をとった体軀たいくは、台湾から北東方向に伸びる日本の南西諸島以北に分布する来訪神の仮面や、台湾の南方、東南アジアに分布する様々な民族仮面を連想させる。だが、台湾原住民の文化に来訪神の存在は希薄であることから、パイワン族やケタガラン族の木製品に表現されたような祖霊を表すものなのかもしれない。青銅製の人形製品は、やはり十三行遺跡に類例があるが、Blihun 漢本遺跡の出土品では、より抽象化が進んでいる。

人間以外の動物を表現した出土品もある。イヌのような獣を象った土製品、粘板岩を打ち剥がして作られたクマやイノシシ、イヌのシルエット(51)も面白い資料である。身近な動物をモデルとした、小さな作品群は何を目的として作られたのだろうか。

数センチの大きさに過ぎないこれらの出土品だが、Blihun 漢本遺跡に暮らした人々の心意や世界観を現代の私たちに伝えようとしている。



09 屈葬人骨／側身屈肢葬

IV 祝禱形式

遺址中也挖掘出許多墓地。可從保存良好的人骨埋葬姿勢、陪葬品一窺他們的宗教觀、生死觀（09・42-46）。此外，各式各樣的道具則展現了漢本住民的集體認同，其設計靈感則來自與其日常息息相關的生物族群（47-51）。

在展現其精神文化的出土遺物中，被視為 Blihun 漢本遺址象徵的是鹿角人形刀柄（10）。在青銅人形刀柄上也可見相同的設計理念。刻意誇大的頭部與相對瘦小的軀幹，也會讓人聯想到從臺灣往東北延伸至日本南西諸島以北的來訪神面具，或是分布於臺灣南部、東南亞的各式人形主題。不過，由於臺灣原住民文化中，來訪神的存在較為罕見。因此，或許更接近排灣族、凱達格蘭族的木製品中呈現的祖靈形象。青銅人形製品雖然也可在十三行遺址中找到類似文物，但 Blihun 漢本遺址出土的遺物則更加抽象化。

除了人類外，也可見動物造型的出土品。看似狗狗外型的獸類陶製品，以板岩打剝而成的熊、山豬、狗狗等剪影圖像（51）也饒富趣味。究竟當時是基於何種目的打造出這些以身邊的動物為靈感的小型作品群的呢？

雖然這些出土遺物只有幾公分大小，卻將漢本遺址住民的內心、世界觀傳達給生活在現代的我們。



10 鹿角製人形刀柄（實物大イラスト）／鹿角刻鑿蹲坐人形柄形器（實物大小插圖）

I. 炎を操る匠たち



11 Blihun 漢本遺跡の製鉄遺構
遺構の部材となった石の種類や形態、大きさは様々であり、円柱状に設えられた内側の空間の直径は1mに満たない。また、側面に通風孔を示す痕跡は確認されていないため、製鉄作業中に火力を調製するために、火吹き竹のような道具を使って、上部から直接空気（酸素）を供給した可能性が指摘されている。

Blihun 漢本遺址鍛鐵遺構
遺構石材の種類、形態、大小各有不同，呈現圓筒豎爐狀的內壁直徑不到1公尺。此外，因側壁未見明顯的鼓風口，故推測冶煉時可能是使用類似吹管的道具，由上方直接提供氧氣。

I 火之匠人



12 鉄製刀子・鉄滓／鐵製刀子、鐵渣



13 金製裝飾品・青銅製鈴／金質裝飾品、青銅製鈴



14 埋葬人骨の頭部付近で出土した金製裝飾品
／於埋葬人骨頭部附近出土的金質裝飾品



15 砂岩製鑄型・開元通寶^{いがた}／砂岩製鑄模、開元通寶



16 敲石・攜帶砥石(円柱状・短冊状)／石錘、攜帶式砥石(圓柱型、短片型)



17 台湾における金・銅鉱山と金・銅製品出土遺跡の分布
 / 臺灣礦産與金屬器具出土遺址分布圖



18 環状・^{けつ}塊状ガラス製品／玻璃環製品

コラム①：台湾鉄器時代の製鉄遺構と実験考古学

Blihun 漢本遺跡の出土遺物や発見された遺構は、同じく国定考古遺跡である新北市十三行遺跡シンゼンハシと共通点が多い。なかでも、石を積み重ねた独特の構造を持つ製鉄遺構はいまのところ、これら二つの遺跡でのみ検出されている。この製鉄炉はアジア他地域でも類例が見つかっておらず、台湾独自の製鉄炉として注目される。

この製鉄炉の構造や生産性を解明するため、新北市立十三行博物館と愛媛大学、西都原考古博物館の三者が共同で、2018年に炉の復元・製鉄実験を実施した。



19 新北市十三行遺跡の製鉄炉
／新北市十三行遺址煉鐵遺構

実験の成果として、砂鉄ゆうかいを融解して製鉄するのに十分な温度を得るためには、炉体を石だけでなく粘土で構築する必要があること、発掘調査で製鉄炉が検出される時点では、炉体の石だけが残存する可能性などが指摘された。今後は実際の製鉄遺構と復元した製鉄炉のより詳細な比較、生産性の分析、実験で得られた鉄塊から実際に鉄製品を製作するなどの研究の進展が展望できる。

専文①：臺灣鐵器時代的煉鐵遺構與實驗考古學

Blihun 漢本遺址出土遺物、發掘遺構，與同為國定考古遺址的新北市十三行遺址有許多共同之處。尤其是以石塊堆積而成的特殊煉鐵遺構，目前僅見於此兩處遺址。因在亞洲其他地區尚未找到類似文物，實屬臺灣獨創，備受各界關注。

為釐清此煉鐵爐的構造、產能，新北市十三行博物館與愛媛大學、西都原考古博物館攜手於2018年進行了煉鐵爐的復原・煉鐵實驗。

本次實驗取得了若要達到足以熔融鐵砂利於煉鐵的溫度，除石塊外也須使用黏土來建構爐體。而煉鐵爐出土時可能僅剩石塊等成果。期許今後能透過煉鐵遺構與復原製鐵爐進行更為詳細的比較、產能分析、實驗，並利用冶煉出的鐵塊實際鑄造相關鐵製品，取得更進一步的研究進展。

粘土ブロックと礫（川原石）を垂直方向に交互に積み重ねていく。礫の隙間を粘土で埋めていく。

將黏土磚與石塊（河川砂石）垂直交疊，並以黏土填補石塊孔隙。



炉内の粘土を完全に乾燥させるため、1時間ほど送風しながら木材を燃やす。

為了讓爐內的黏土完全乾燥，會持續送風1小時並燃燒柴火。

操業終盤の排滓作業時に、排滓孔を通して炉内から取り出された鉄の塊。

最後進行排渣作業時，透過排渣孔從爐內取出的鐵塊。



II. 黒潮と亜熱帯林の恵み



21 貝輪・冠形貝珠（連珠）／貝環、冠形貝珠

II 黑潮與亞熱帶林區的恩惠



22 貝殼（ヤコウガイ・ヤコウガイ蓋・ハチジョウダカラ・マルサザエ・ヤエヤマヒルギシジミ）／貝殼（夜光蠔螺、夜光蠔螺口蓋、龜甲寶螺、圓蠔螺、紅樹蜆）



23 イモガイ製裝飾品・貝珠、タカラガイ製裝飾品
／芋螺製有孔貝製品、貝珠、寶螺製貝製品



24 海水魚類自然遺物（トラザメ類・カジキ類・ロウニンアジ・シイラ）
 ／海水魚生態遺留（猫鯨類、旗魚類、浪人鯨、鬼頭刀〔鯨鯨〕）



25 クジラ・イルカ類・爬虫類自然遺物（クジラの脊椎、ザトウクジラ・イルカの耳骨、ウミガメの歯骨）
 ／鯨海豚類、爬虫類的生態遺留（鯨之脊柱、座頭鯨和海豚之耳骨鼓泡、海龜齒骨） ※非展示品／非展示品



26 狩獵・漁撈具（千枚岩製磨製尖頭狀石器・粘板岩製部分磨製石鏃・鹿角製結合式釣針・鹿角製逆T字形釣針・單式釣針）／狩獵、漁撈具（千枚岩加磨尖狀器、板岩打剝加磨帶鋸鏃形器、組合式釣鉤、雙尖狀魚卡子、穿孔魚卡子）



27 獣骨・骨角牙器類（イノシシ類上顎骨・タイワンキョン角・磨製錐形骨器〔シカ尺骨〕・磨製有孔錐形骨器〔シカ砲骨〕・磨製錐形骨器〔シカ砲骨〕・磨製錐・鑿形骨器〔シカ？長骨〕・磨製鑿形骨器〔シカ中足骨〕・磨製尖頭狀鹿角製品・磨製骨鏃〔シカ〕）
 ／獣骨、骨角牙器類（猪上顎骨、羌角、鹿類尺骨削磨錐形器、鹿類砲骨削磨穿孔錐形器、砲骨削磨尖刃錐形器、獸類長骨削磨尖鑿狀器、鹿蹄骨削磨鑿形器、鹿角削磨尖狀器、骨質削磨鏃形器〔花鹿〕）



28 骨角牙器類（有孔牙製裝飾品〔イノシシ〕・有孔柄形鹿角製品・磨製柄形骨器〔シカ中足骨〕・有孔牙製裝飾品〔食肉目・タイワンキョン〕・有孔サメ歯製裝飾品）

／骨角牙器類（猪犬牙穿孔飾品、鹿角劈磨穿孔雙叉柄形器、鹿類趾骨磨製刻劃柄形器、犬牙穿孔飾品〔食肉目、公兎〕、鯊魚牙穿孔飾品、鯊魚下側齒穿孔牙飾）

コラム②：台湾ウンピョウへのまなざし

Blihun 漢本遺跡から骨などが出土した動物で特筆すべきなのが台湾ウンピョウである。2013年に専門誌で絶滅が宣言されたウンピョウの絶滅亜種で、尾まで含めた体長は180cmに達したネコ科動物であった。

台湾には、我が国のツシマヤマネコ、イリオモテヤマネコと近縁で、やはり絶滅の危機に瀕している「石虎（ベンガルヤマネコ）」もいるが、これと比較してもかなり大型の肉食獣といえる。

台湾ウンピョウは、パイワン族など山地を居住域とする多くの台湾原住民族にとって、特別な意味を持つ獣である。神話や伝説に登場するばかりでなく、その毛皮や牙（犬歯）は特別な衣服や頭飾の材料とされた。

Blihun 漢本遺跡ではこの獣の下顎骨や、穿孔された犬歯などが出土しており、この遺跡に暮らした人々にとっても台湾ウンピョウは特別視すべき動物だったに違いない。



29 タイワンウンピョウ／臺灣雲豹



30 ウンピョウ頭蓋骨模型／雲豹頭骨模型

專文②：眾所矚目的臺灣雲豹

Blihun 漢本遺址出土的獸類遺物中，最值得一提的就是臺灣雲豹。已在 2013 年宣告滅絕的臺灣雲豹亞種，含尾身長達 180cm 的貓科動物。與日本對馬山貓、西表島山貓為同一亞種，也同樣面臨滅絕危機的臺灣「石虎」相比，臺灣雲豹可說是十分大型的肉食性動物。

對排灣族等許多以山林為家的臺灣原住民而言，臺灣雲豹具有極為特殊的意義。不僅出現在神話、傳說中，其毛皮、牙（犬齒）也成為原住民特殊服飾、頭飾的材料。

Blihun 漢本遺址出土的雲豹下顎骨、穿孔犬齒，都可證明在漢本遺址住民心中，臺灣雲豹是多麼與眾不同。



31 ウンピョウの下顎骨・有孔牙製品／雲豹下顎骨、穿孔牙飾
※非展示品／非展示品



32 パイワン族の雲豹皮衣うんびょうかわごろも／排灣族雲豹皮衣 ※非展示品／非展示品

Ⅲ. 石敷きの村落と人々の交流



33 Blihun 漢本遺跡の住居跡と前庭の敷石

板状の石が敷き詰められた空間は家屋の前庭部で、地面が露出した範囲が生活空間。家屋の壁として築かれた石塁は、高いところでは3 mにも達する。村落は地形の傾斜に合わせて展開し、石塁はしばしば階段状となる。

III 石造村落與人際交流



Blihun 漢本遺址家屋遺跡與前庭鋪石

鋪設石板的空間為家屋前埕，地面露出範圍為其生活空間。以石塊堆積而成的駁坎，最高可達 3 公尺。因村落位處斜坡，石牆多呈現階梯狀。



34 台湾原住民タイヤル族^{ホコスイ}玻可斯依社の復元家屋
／臺灣原住民泰雅族玻可斯依社重現家屋



35 脚付有肩壺／折肩高足瓶



36 小型土器類/小型陶器



37 印紋土器甕／拍印紋罐形器



38 把手台付甕・双耳瓶形土器・平底壺・上底壺・台付平底壺・脚付壺・脚付甕
／罐瓶形器



39 斧形軟玉製品・鑿形軟玉製品・瑪瑙(紅玉)製玉類
 /閃玉磨製鏹形器、閃玉磨製鑿形器、瑪瑙珠



40 ちょうさよう しき 長沙窯産瓷器 / 長沙窯産瓷器



41 様々な生活用具 (片刃礫器・軽石製品・磨製石斧・石製紡錘車)
／各式生活用具 (砍砸器、浮石製品、磨製鏹形器、紡輪)

IV. 祈りのかたち



42 環状ガラス製品（ガラス製腕輪）を両腕に身につけた埋葬人骨
／雙臂戴有玻璃環飾屈肢葬



43 環状ガラス製品（ガラス製腕輪）／玻璃環製品（玻璃製臂環）

IV 祝禱形式



44 ガラス玉連珠／玻璃珠飾



45 石棺に納められた青銅製人形刀柄／放入石棺的青銅人形刀柄



表面



裏面

46 青銅製人形刀柄 (実物大)／青銅人形刀柄 (實物大小)



47 鹿角製人形裝飾品類及び素材となるハナジカ(タイワンジカ)の頭蓋冠
／花鹿額骨及角、鹿角加磨刻劃人形母題器、鹿角刻鑿蹲坐人形柄形器



48 人面・人形・獣をデザインした鹿角・骨製品
 /人面、人形、獸類造型鹿角、骨製品



49 人面・人形をデザインした印紋土器破片
／人面、人形造型幾何拍印紋陶器碎片



50 大理石製裝飾品／大理石製裝飾品



51 石製短剣・獣形土製品・獣形石製品(クマ・イノシシ・イヌ)
／石製匕首、獣形陶製品、獣形石製品(熊、山猪、狗)



52 環狀・有孔石製品／穿孔石環

出展資料一覧 (1)

※資料は全て宜蘭県立蘭陽博物館所蔵の Blihun 漢本遺跡出土資料及び関連資料であり、台湾鉄器時代の所産である。

構成	種 番 号	資 料 番 号	展 示 資 料 名 (日本語 / 中国語)	点 数
展示解説	10・47・48	1	鹿角製人形刀柄 / 鹿角刻鑿蹲坐人形柄形器	1 点
I I 火を操る匠たち	12	2	鉄製刀子 / 鐵製刀子	2 点
		3	鉄滓 / 鐵渣	2 式
	13	4	金製裝飾品 (円形) / 金質裝飾品 (圓形折縁錘鏤壓印紋箔片)	3 点
		5	金製裝飾品 (螺旋状) / 金質裝飾品 (長條螺旋狀飾品)	1 点
		6	青銅製鈴 / 青銅製鈴	3 点
	15	7	砂岩製鑄型 / 砂岩製鑄模	3 点
		8	開元通宝 / 開元通寶	1 点
	16	9	携帯砥石 (円柱状・短冊状) / 攜帶式砥石 (圓柱型・短片型)	4 点
		10	敲石 / 石錘	4 点
	18・43	11	環状・球状ガラス製品 / 玻璃環製品	6 点
	II 黒潮と亜熱帯の恵み / II 黒潮與亞熱帯林區の恩恵	21	12	貝輪 / 貝環
13			冠形貝珠 (連珠) / 冠形貝珠	1 点
22		14	貝殻 (ヤコウガイ、ヤコウガイ蓋、ハチジョウダカラ、マルサザエ、ヤエヤマヒルギシジミ) / 貝殼 (夜光螺、夜光螺螺口蓋、龜甲寶螺、圓螺、紅樹蜆)	5 点
		15	イモガイ製裝飾品 / 芋螺製有孔貝製品	5 点
23		16	イモガイ製貝珠 / 芋螺製貝珠	2 点
		17	タカラガイ製裝飾品 / 寶螺製貝製品	6 点
24		18	海水魚類自然遺物 (トラサメ類、カシキ類、ロウコンアジ、シイラ) / 海水魚生態遺留 (貓鯊類、旗魚類、浪人鯨、鬼頭刀 [鯨鰓])	7 点
		-	19	海洋哺乳類脊椎 / 海洋哺乳類脊椎
26		20	千枚岩製磨製尖頭状石器 / 千枚岩加磨尖状器	1 点
		21	粘板岩製部分磨製石鏃 / 板岩打剝加磨帶鋸形器	2 点
		22	鹿角製結合式釣針 / 組合式釣鉤	2 点
		23	鹿角製逆T字形釣針 / 雙尖狀魚卡子	3 点
		24	単式釣針 / 穿孔魚卡子	1 点
27		25	インシシ類上顎骨 / 豬上顎骨	1 点
		26	タイワンキョン角 / 羌角	1 点
		27	磨製錐形骨器 (シカ尺骨) / 鹿類尺骨削磨錐形器	1 点
		28	磨製有孔錐形骨器 (シカ砲骨) / 鹿類砲骨削磨穿孔錐形器	1 点
		29	磨製錐形骨器 (シカ砲骨) / 砲骨削磨尖刃錐形器	1 点
		30	磨製錐・鑿形骨器 (シカ長骨) / 獸類長骨削磨尖鑿狀器	1 点
		31	磨製鑿形骨器 (シカ中足骨) / 鹿蹄骨削磨鑿形器	1 点
	32	磨製尖頭状鹿角製品 / 鹿角削磨尖状器	1 点	
	33	磨製骨鏃 (シカ) / 骨質削磨鏃形器 (花鹿)	1 点	
28	34	有孔牙製裝飾品 (インシシ) / 豬犬牙穿孔飾品	2 点	
	35	有孔柄形鹿角製品 / 鹿角劈磨穿孔雙叉狀柄形器	1 点	
	36	磨製柄形骨器 (シカ中足骨) / 鹿類趾骨磨製刻劃柄形器	1 点	
	37	有孔牙製裝飾品 (食肉目) / 食肉目犬牙穿孔飾品	4 点	
	38	有孔牙製裝飾品 (タイワンキョン) / 公羌犬牙穿孔飾品	1 点	
	39	有孔サメ歯製裝飾品 / 鯊魚牙穿孔飾品、鯊魚下側齒穿孔牙飾	2 点	
30	40	ウンビョウ頭蓋骨模型 / 雲豹頭骨模型	1 点	

出展資料一覧 (2)

※資料は全て宜蘭県立蘭陽博物館所蔵の Blihun 漢本遺跡出土資料及び関連資料であり、台湾鉄器時代の所産である。

構成	標図 番号	資料 番号	展 示 資 料 名(日本語/中国語)	点 数
Ⅲ Ⅲ 石敷きの村落と人々の交流 石造村落與人際交流	-	41	Blihun漢本遺跡ジオラマ/遺址現象模型	1 点
		35	42 脚付有肩壺/折肩高足瓶	1 点
		36	43 小型土器/小型陶器	6 点
		37	44 印紋土器甕/拍印紋罐形器	7 点
		38	45 把手台付甕・双耳瓶形土器・平底壺・上底壺・台付平底壺・脚付壺・脚付甕/罐瓶形器	7 点
			46 斧形軟玉製品/閃玉磨製鏹形器	1 点
		39	47 鑿形軟玉製品/閃玉磨製鑿形器	1 点
			48 瑪瑙(紅玉)製玉類/瑪瑙珠	10 点
		40	49 長沙窯産瓷器(水注ほか破片)/長沙窯青瓷	4 点
			50 片刃礫器/砍砸器	2 点
		41	51 軽石製品/浮石製品	3 点
			52 磨製石斧/磨製鏹形器	1 点
			53 石製紡錘車/紡輪	3 点
Ⅳ 折りのかたち/Ⅳ 祝儀形式		44	54 ガラス玉連珠/玻璃珠飾	3 点
		46	55 青銅製人形刀柄/青銅人形刀柄	1 点
		47	56 ハナジカ(タイワンジカ)頭蓋冠/花鹿額骨及角	1 点
			57 鹿角製人形裝飾品/鹿角加磨刻劃人形母題器	1 点
		48	58 ② 人形骨角製品/人形骨雕殘件	1 点
			59 ③ 人面付柄形骨器/骨角質人面雕飾柄形器	1 点
			60 ④ 獸面付柄型骨器/骨角質獸首雕飾柄形器	1 点
		49	61 人面・人形をデザインした印紋土器破片/人面・人形造型幾何拍印紋陶器碎片	4 点
		50	62 大理石製裝飾品/大理石製裝飾品	4 点
		51	63 石製短劍/石製匕首	2 点
	64 獸形土製品/獸形陶製品		2 点	
		65 獸形石製品(クマ・イノシシ・イヌ)/獸形石製品(熊・山猪・狗)	3 点	
	52	66 環状・有孔石製品/穿孔石環	13 点	
合 計 66 件				174 点

掲載写真・画像一覧 (1)

番号	掲載頁	写真・画像名(日本語/中国語)	点数	所蔵・提供・出典
01	8	台湾考古学の時代・文化区分/臺灣考古學的時代・文化區分	1点	陳有貝2024 図8-5を基に作成
02	9	Blihun漢本遺跡の立地/Blihun漢本遺址地理位置	1点	中華民國交通部公路局蘇花公路改善工程處
03	10	Blihun漢本遺跡の製鉄遺構/Blihun漢本遺址鍛鐵遺構	1点	朱正宜他2017 P.21より転載
04	11	砂鉄を採取するBlihun漢本遺跡の人々(想像復元画) 採集鐵砂的Blihun漢本遺址眾人(想像復原圖)	1点	朱正宜他2024 P.33より転載(薛宏彬 画)
05	12	05 魚鉤(ギャフ)/鐵鈎	1点	朱正宜他2017 P.44より転載
06	13	Blihun漢本遺跡の村落と自然(想像復元画) Blihun漢本遺址的村落與自然(想像復原圖)	1点	朱正宜他2024 P.25より転載(薛宏彬 画)
07	14	Blihun漢本遺跡の発掘調査/Blihun漢本遺址發掘調查	1点	朱正宜他2017 P.96より転載
08	15	家屋内部の構造(想像復元画)/家屋内部想像復原圖	1点	朱正宜他2024 P.27より転載(薛宏彬 画)
09	16	屈葬人骨/側身屈肢葬	1点	朱正宜他2024 P.95より転載(傅作新 画)
10	17	鹿角製人形刀柄(実物大イラスト) 鹿角刻鑿蹲坐人形柄形器(實物大小插圖)	1点	朱正宜他2024 P.93より転載(傅作新 画)
11	18	Blihun漢本遺跡の製鉄遺構/Blihun漢本遺址鍛鐵遺構	1点	朱正宜他2017 P.21より転載
12	19	鉄製刀子・鉄滓/鐵製刀子・鐵渣	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
13	20	金製装飾品・青銅製鈴/金質裝飾品・青銅製鈴	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
14	20	埋葬人骨の頭部付近で出土した金製装飾品 於埋葬人骨頭部附近出土的金質裝飾品	1点	朱正宜他2017 P.127より転載
15	21	砂岩製鋳型・開元通宝/砂岩製鑄模・開元通寶	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
16	21	蔽石・携帯蔽石(円柱状・短冊状) 石鍾・攜帶式砥石(圓柱型・短片型)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
17	22	台湾における金・銅鉱山と金・銅製品出土遺跡の分布 臺灣礦產與金屬器具出土遺址分布圖	1点	AdobeStock bogdanseran作成図を改変・ 朱正宜他2017 P.23・29を基に作成
18	23	環状・塊状ガラス製品/玻璃環製品	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
19	24	新北市十三行遺跡の製鉄炉 新北市十三行遺址煉鐵遺構	1点	中央研究院歷史語言研究所 考古資料數位典藏 資料庫 https://ndweb.ih.s.sinica.edu.tw/ihparchaec/feature_detail.jsp?efn=CIDo11tBP5vn86NyoVM
20	25	新北市立十三行博物館での製鉄実験 新北市立十三行博物館煉鐵實驗	3点	西都原考古博物館撮影
21	26	貝輪・冠形貝珠(連珠)/貝環・冠形貝珠	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
22	27	貝殼(ヤコウガナイ・ヤコウガイ蓋・ハチジョウダガラ・マルサザエ・ヤエヤマヒルギシジミ) 貝殼(夜光螺、夜光螺螺口蓋、龜甲寶螺、圓螺、紅樹螺)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
23	27	イモガイ製装飾品・貝珠、タカラガイ製貝製品 芋螺製有孔貝製品、貝珠、寶螺製貝製品	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
24	28	海水魚類自然遺物(トラザメ類・カジキ類・ロウニンアジ・シイラ) 海水魚生態遺留(鰨類、旗魚類、浪人鯨、鬼頭刀(鰩類))	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
25	28	クジラ・イルカ類・爬虫類自然遺物(クジラの脊椎、ザトウクジラ・イルカの耳骨、ウミガメの歯骨) 鯨海豚類、爬蟲類的生態遺留(鯨之脊椎、座頭鯨と海豚之耳骨鼓泡、海龜齒骨)	1点	關陽博物館(王佩珊)撮影
26	29	狩猟・漁撈具(千枚岩製磨製尖頭状石器・粘板岩製部分磨製石鏃・鹿角製結合式釣針・鹿角製T字形釣針・串式釣針) 行獵・漁撈具(千枚岩加磨尖狀器、板岩打刺加磨帶銼鏃形器、組合式釣鈎、雙尖狀魚卡子、穿孔魚卡子)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
27	30	獣骨・骨角牙器類(インシシ類上顎骨・タウワンキョウ角・磨製錐形骨器[シカ尺骨]・磨製有孔錐形骨器[シカ礎骨]・磨製錐形骨器[シカウ長骨]・磨製錐形骨器[シカ中足骨]・磨製尖頭状鹿角製品・磨製骨鏃[シカ]) 獸骨・骨角牙器類(豬大顎骨、光角、鹿頭尺骨刺磨錐形器、鹿頭刺磨骨穿孔形器、刺磨骨刺尖刀形器、鹿頭長骨刺磨尖鏃狀器、鹿頭骨刺磨錐形器、鹿角刺磨尖狀器、骨質刺磨錐形器〔花鹿〕)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
28	31	骨角牙器類(有孔牙製装飾品[インシシ]・有孔柄形鹿角製品・磨製柄形骨器[シカ中足骨]・有孔牙製装飾品[食肉目・タウワンキョウ]・有孔サメ歯製装飾品) 骨角牙器類(豬大牙穿孔鹿品、鹿角刺磨骨穿孔雙叉狀柄形器、鹿頭刺磨骨製刺磨柄形器、大牙穿孔鹿品〔食肉目、公光〕、鯊魚牙穿孔鹿品、鯊魚下側齒穿孔牙飾)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
29	32	タイワンウンビョウ/臺灣雲豹	1点	Yoseph Wolf 1862, Plate XLIII, Leopardus brachyurus より転載

掲載写真・画像一覧 (2)

番号	掲載頁	写真・画像名(日本語/中国語)	点数	所蔵・提供・出典
30	32	ウンピョウ頭蓋骨模型/雲豹頭骨模型	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
31	33	ウンピョウの下顎骨・有孔牙製品/雲豹下顎骨・穿孔牙飾	1点	蘭陽博物館(王佩珊)撮影
32	33	パイワン族の雲豹皮衣/排灣族雲豹皮衣	1点	ColBase (https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tmm/TK-238?locale=ja)
33	34・35	Blihun漢本遺跡の住居跡と前庭の敷石 / Blihun漢本遺址家屋遺跡與前庭鋪石	1点	朱正宜他2017 P.97より転載
34	36	台湾原住民タイヤル族玻可斯依社の復元家屋 / 臺灣原住民泰雅族玻可斯依社重現家屋	1点	文化部國家文化記憶庫取存系統玻可斯依社 Pisa-Umin家屋(花蓮縣秀林鄉秀林村) https://cmsdb.culture.tw/object/37CBEAFB-1455-4E8B-8872-8925D36AB45E#&gid=1&pid=4
35	36	脚付有肩壺/折肩高足瓶	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
36	37	小型土器類/小型陶器	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
37	38	印紋土器壺/拍印紋罐形器	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
38	39	把手台付壺・双耳瓶形土器・平底壺・上底壺・台付 平底壺・脚付壺・脚付壺・脚付壺/罐形器	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
39	40	斧形軟玉製品・盤形軟玉製品・瑪瑙(紅玉)製玉類 / 閃玉磨製鏢形器・閃玉磨製鏢形器・瑪瑙珠	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
40	40	長沙窯産瓷器/長沙窯産瓷器	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
41	41	様々な生活用具(片刃礮器・軽石製品・磨製石斧・石製紡錘車) / 各式生活用具(砍砸器・浮石製品・磨製鏢形器・紡輪)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
42	42	環状ガラス製品(ガラス製腕輪)を両腕に身に着けた埋葬人骨 / 雙臂戴有玻璃環飾屈肢器	1点	朱正宜他2017 P.127より転載
43	42	環状ガラス製品(ガラス製腕輪)/玻璃環製品(玻璃製臂環)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
44	43	ガラス玉連珠/玻璃珠飾	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
45	44	石棺に納められた青銅製人形刀柄 / 放入石棺的青銅人形刀柄	1点	朱正宜他2017 P.127より転載
46	44	青銅製人形刀柄(実物大)/青銅人形刀柄(實物大小)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
47	45	鹿角製人形裝飾品類及び素材となるハナジカ (タイワンジカ)の頭蓋冠 / 花鹿額骨及角・鹿角加磨刻劃人形母題器、 鹿角刻鏢蹲坐人形柄形器	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
48	46	人面・人形・獣をデザインした鹿角・骨製品 / 人面・人形・獣類造型鹿角・骨製品	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
49	47	人面・人形をデザインした印紋土器破片 / 人面・人形造型幾何拍印紋陶器破片	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
50	47	大理石製裝飾品/大理石製裝飾品	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
51	48	石製短剣・獣形土製品・獣形石製品(クマ・イノシシ・イヌ) / 石製匕首・豊穡嚢製品・獸形石製品(熊・山猪・狗)	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
52	49	環状・有孔石製品/穿孔石環	1点	西都原考古博物館(東憲章)撮影
表表紙		史前Blihun漢本聚落想像圖・鹿角刻鏢蹲坐人形柄 形器・鹿角加磨刻劃人形母題器	3点	朱正宜他2024 P.19・20・85・94より改変転載 (薛宏彬、傅作新 画)
中表紙		鹿角刻鏢蹲坐人形柄形器	1点	朱正宜他2024 P.94より転載(傅作新 画)
裏表紙			1点	朱正宜他2024 P.69より転載(薛宏彬 画)
合計			59点	

【引用・参考文献】

- 吳小枚 2009『海海人生 南方澳媳婦的魚港見聞手記』蘭博叢書 4 宜蘭縣立蘭陽博物館
沖野 誠 編 2017『台湾鉄器文化の粹 新北市十三行遺跡と人びと』2017 年度国際交流
展宮崎県立西都原考古博物館
加藤 徹 編 2019『台湾宜蘭 淇武蘭遺跡～海路の交わるところ～』2019 年度宮崎県立
西都原考古博物館国際交流展 宮崎県立西都原考古博物館
戴秀玲 2007『宜蘭魚資源』蘭博叢書 2 宜蘭縣立蘭陽博物館
朱正宜、邱秀蘭、王佩珊、葉沛明、劉汎笛、劉益助 編 2017『重見 / 建 / 現 漢本—發掘
階段成果特展 展覽專輯』宜蘭縣立蘭陽博物館
朱正宜、傅作新、薛宏彬、邱秀蘭、李孟紋、王佩珊 2024『畫說史前 Blihun 漢本』文化部
文化資產局
陳有貝 2024『台湾考古学』雄山閣
李莎莉 編 2024『bulabulay・原民之耀：臺灣原住民族經典文物聯展暨巡回展』財團法人
福祿文化基金會
Yoseph Wolf 1862 *Proceedings of the Zoological Society of London, Vol.1862.*

【協力機関】（敬称略）

中華民國文化部文化資產局／中華民國交通部公路局蘇花公路改善工程處／中華民國新北市
立十三行博物館／中華民國財團法人福祿文化基金會

【協力者】（敬称略）

王薇婷／朱正宜／李莎莉／邱水金／薛宏彬／傅作新

令和 7（2025）年度 国際交流展

千年の至芸

台湾宜蘭 Blihun 漢本遺跡

民國 114（2025）年度 国際交流展

千年的至藝

臺灣宜蘭 Blihun 漢本遺址

【発行日】 令和 7（2025）年 9 月 20 日／民國 114（2025）年 9 月 20 日

【編集】 松本 茂

【発行】 宮崎県立西都原考古博物館

〒 881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西 5670 番

Tel: 0983-41-0041 Fax: 0983-41-0051

<https://saito-muse.pref.miyazaki.jp>

【印刷】 株式会社 宮崎南印刷

〒 880-0911 宮崎市大字田吉 350-1

Tel: 0985-51-2745 Fax: 0985-52-2682

【版權頁】

發行機關／宜蘭縣立蘭陽博物館

出版者／宜蘭縣立蘭陽博物館、宮崎縣立西都原考古博物館

作者／松本茂、李孟紋、王佩珊、游貞華

譯者／王薇婷

電話／(03)977-9700

網站／<http://www.lym.gov.tw>

館址／宜蘭縣頭城鎮青雲路三段750號

ISBN :978-626-7247-77-8 (PDF)

GPN :4711400065

出版日期:2025年9月

